

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
会長 原田 実生

新年おめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

まず、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、日本はもとより世界の経済活動に深刻な打撃を与え、現在もその対応に大変苦慮している状況下にあります。今年も、ワクチンの効果等により終息の方向に向かうことを願うばかりです。

さて、昨年の我が国経済は、そのような状況から国内総生産は4月から6月には記録的な落ち込みとなり、その後反動から伸びを記録したものの、特に内需の回復にはほど遠いものがありました。先行きについても、業績悪化や不透明感を背景に、雇用・所得環境の回復の足取りは極めて鈍いものになると予想されています。

このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、新設住宅着工戸数は前年の消費増税等もあって年初から対前年同月比でマイナス10%を超える状況にあり、現在でもマイナス10%前後で推移しております。全体的には軟調な住宅着工を背景に、地域差もなく厳しい経営環境下にあります。一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で木造の大型商業施設や公共施設等の建築が促進され、これらの動きがプレカット加工業においても、新たな需要分野として期待されています。

当協会ではプレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、平成24年度から「プレカットCAD技術者認定登録」を実施し、相当数の工場の技術者が受講し、認定登録をしております。これらのプレカット工場においては、認定技術者が優れた加工技術のレベル向上に活躍されているところです。

今後については、プレカット加工率が9割を超えている状況と少子高齢化等を背景とした新設住宅着工戸数の漸減傾向への対応として、一般流通材を利用した施設系中規模木造建築物等のプレカット加工図作成に当たって必要となる木質材料、木質構造、関連法規等について研修内容に加え、新たな需要への対応能力の向上に努めて行くこととしています。

一方、業務支援としては、合法木材供給事業者認定等による違法伐採対策の推進を図るとともに、全国住宅プレカット部材共済会によりプレカット部材に10年間の瑕疵保証責任保険を付保するプレカット部材瑕疵保証事業を行っております。

これらを通じて、安全・安心な住環境の創造で顧客に満足の得られるような木造建築物の提供に協会員がお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとってすばらしい一年となりますようにご祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶いたします。



今年度のCAD技術者研修はオンラインで開催

当協会では、プレカット加工業に対する技術支援としてプレカットCAD技術者研修を実施しております。

令和2年度のCAD技術者研修は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、下記の日程で初めてオンラインでの開催といたしました。

この中で新規研修の修了審査で基準点を満たした修了者は、当協会のプレカットCAD技術者認定実施規程に基づき、申請によって1級、2級、3級として登録が可能になります。

また、登録更新研修受講者は、さらに5年間有効期限が延長されます。

記

- 1 新規 2・3級コース：令和3年2月1日(月)・3日(水)・5日(金)
- 2 登録更新 2・3級コース：令和3年2月16日(火)
- 3 新規 1級コース：令和3年3月1日(月)・3日(水)・5日(金)
- 4 登録更新 1級コース：令和3年3月11日(木)

プレカットCAD技術者認定登録状況

(令和2年12月20日現在)

研修受講 年度	認定級別	東京会場		名古屋会場		大阪会場		合計	
		認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者	認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者	認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者	認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者
24年度	2級	17	11	10	4	11	4	38	19
25年度	1級	13	6	—	—	—	—	13	6
	2級	14	9	11	5	5	1	30	15
	3級	0	0	0	0	0	0	0	0
26年度	1級	2	0	—	—	—	—	2	0
	2級	42	25	33	11	—	—	75	36
	3級	4	3	2	—	—	—	6	3
27年度	1級	3	2	—	—	—	—	3	2
	2級	29	12	21	11	—	—	50	23
	3級	4	2	4	2	—	—	8	4
28年度	1級	7	3	—	—	—	—	7	3
	2級	25	13	—	—	—	—	25	13
	3級	3	2	—	—	—	—	3	2
29年度	1級	7	1	—	—	—	—	7	1
	2級	49	20	—	—	—	—	49	20
	3級	13	7	—	—	—	—	13	7
30年度	1級	6	3	—	—	—	—	6	3
	2級	57	26	—	—	—	—	57	26
	3級	3	3	—	—	—	—	3	3
元年度	1級	—	—	—	—	—	—	—	—
	2級	45	19	—	—	—	—	45	19
	3級	16	11	—	—	—	—	16	11
合計	1級	38	15	—	—	—	—	38	15
	2級	278	124	75	31	16	5	369	171
	3級	43	28	6	2	0	0	49	30

注)：24・25年度登録者については、登録の有効期限の5年間を経過しており、登録更新した者(翌年度更新登録予定者は含む)を計上している。

※会員欄は、令和2年12.20時点

プレカット業況調査 (令和2年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 48%)

設 問	回答比率 (%)			D I	前回 D I
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	27	59	14	+13	-29
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	7	45	48	-41	-13
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 5,850円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	90	7	-4	-10
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	7	72	21	-14	-23
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	7	65	28	-21	+32
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	4	72	24	-20	+19
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	31	55	14	+17	-29
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	4	41	55	-51	-19

* D I = (1)の% - (3)の%, +の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 令和2年8月

◇簡単なコメント

11月の各設問のD Iをみると、受注額については、現状では好転の会員が悪化の会員数を上回っているが、逆に今後については悪化の予想が大幅に上回っている。収益についても、+17の現況となっているが、今後については悪化の予想が半数以上となっている。加工単価については大半の会員が変わらずの状況であるが、3ヵ月後については悪化が上回る予想となっている。また、資材の入手状況は、前回はいずれも+予想であったが、現状、先行きとも困難であるとなっている。今後は、コロナ禍がおさまリ、経済活動が平常に戻り、よって受注額と収益が改善されることを期待したい。

- 1 受注額のD Iは+13で前回調査時(令和2年8月期)に比べて、好転の現状にあるようだ。しかし、3ヶ月後の予測のD Iは-41で現状よりかなり悪化するとの予想が大宗を占めている。今後は、いづれからでも落ち込みが軽減されることを期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のD Iは-4となっているが大半の会員は変わらずの状況となっている。平均総加工単価も5,850円と3ヵ月前と比べて変わらずとなっている。3ヵ月後の製品加工単価のD Iは-14であるが、加工単価の変動はさほどない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のD Iは-21でいくぶん入手困難の状況にある。3ヵ月後の予測のD Iについても-20であり、入手困難が継続する予想となっている。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のD Iは+17と好転の状況にある。前回調査時の3ヶ月後の収益予測は-19であったが現状では予想に反して改善したものとなっている。さらに、3ヶ月後の収益予測は-51と、現状よりかなり困難な状況になる見通しとなっている。

協会会員工場基礎調査結果について（第4回）

— 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月：令和元年12月 調査対象工場数：34工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位：100坪)	26、68、60	160、126、 119、111	280、210	330、438、 420、305、 480、358、 423、470、 350、325	533、842、 5200、750、 1652、1000、 540、5490、 593、712、 1100、900、 5031、1836、 1076	32,314
平均	51.3	129.0	245.0	389.9	1,817.0	950.4
(前年平均)	(77.0)	(134.1)	(255.4)	(393.5)	(1,788.8)	(776.4)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	21、68、0	0、1、 0、2	0、0	0、0、36、0、 0、320、0、 0、0、85	74、28、1700、 375、0、0、0、 3430、0、 712、100、0、 0、0、291	7,243
平均	29.7	0.8	0.0	44.1	447.3	213.0
(前年平均)	(70.0)	(21.0)	(0.0)	(18.1)	(805.3)	(279.5)
AQ製品生産比率	57.9%	0.6%	0.0%	11.3%	24.6%	22.4%
(前年AQ製品 生産比率)	(90.9%)	(15.7%)	(0.0%)	(4.6%)	(45.0%)	(36.0%)

◇簡単なコメント

- 会員34工場を対象とした調査によると、令和元年の1工場当たり年間平均生産量は、95,040坪で、1棟当たり40坪換算で、約2,370棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、約2.2%の増加になっている。これは、プレカット工場の加工設備の増設や更新が引き続き進んでいることや各工場の活発な受注活動に比例した数字となっている。階層別に見ると、50,000坪以上の規模の大きいクラスが増加し、小規模クラスで平均生産量が減少している。

これまでの調査では、各工場の生産能力の増大により生産量の階層別に見た工場数は上位の階層にシフトする傾向が見られたが、今回の調査ではその動きが顕在化してきている。

なお、調査年度により回答していただける工場にバラツキがあり、そのため集計結果に変動がみられるところである。
- 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は22.4%で前年に比べて13.6ポイント下降した。階層別にAQ製品の生産比率を見ると、今回は3万坪から5万坪未満の中堅クラスのプレカット工場において、AQ製品の生産が上昇していることがうかがえる。反面、小規模・大規模工場においては減少が顕著になっている。しかしながら、今回の調査では、AQ製品の生産に取り組む会員工場は15工場と前回調査より増加しているが、調査対象工場の3割には満たない状況である。今後、より一層の性能・品質の高い住宅供給のためには、まずは、AQ製品生産に取り組む会員工場の増加が喫緊の課題といえる。

木の街づくりの推進に向けて

—令和2年度「木材利用推進全国会議」が盛大に開催される—

木材利用推進中央協議会（会長 鈴木和雄全木連会長 構成：17中央協議会会員団体（当協会も構成団体）、47都道府県地域協議会、）は、10月30日（金）に江東区新木場の木材会館において、令和2年度「木材利用推進全国会議」を開催しました。今年は、コロナ禍にあり会場への参集者（50名程度）を制限したため、参加者（100名程度）を募りWEB中継を行いました。

当日は、第1部で木材利用優良施設コンクールの表彰式、第2部で記念講演が行われました。

第1部では、木材利用推進中央協議会主催による「令和2年度木材利用優良施設コンクール」の表彰式が行われました。これは、木造建築物等において地域材を有効活用した施設、木材利用分野を拡大した施設、低位利用木材を有効活用した施設など、木造建築物の普及のため他の模範になる施設を表彰し紹介するものです。

主催者として鈴木会長の挨拶に続き、ご来賓を代表して本郷浩二林野庁長官が祝辞（野上浩太郎農林水産大臣の祝辞代読）を述べられました。ご来賓には、国土交通省の黒田昌義大臣官房審議官、環境省の白石隆夫大臣官房審議官ほかが出席されました。

審査講評で、三井所清典審査委員長は『今年は全体的に合法材の活用をアピールする事例が多かった。CLTもたくさん使われていて「木造建築が新しい時代に入った」こと、「今まさに動いている」ことを実感した』と述べられました。

表彰施設は次のとおり、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、国土交通大臣賞及び環境大臣賞はそれぞれ1点、ほかに、林野庁長官賞3点、木材利用推進中央協議会会長賞4点及び審査委員会特別賞2点が表彰されました。

- | | |
|---------------------|--|
| （ 内 閣 総 理 大 臣 賞 ） | 白鷹町まちづくり複合施設（山形県白鷹町） |
| （ 農 林 水 産 大 臣 賞 ） | mother's+(マザーズプラス)（北海道白老町） |
| （ 国 土 交 通 大 臣 賞 ） | 魚津市立星の杜小学校（富山県魚津市） |
| （ 環 境 大 臣 賞 ） | 有明体操競技場（東京都江東区） |
| （ 林 野 庁 長 官 賞 ） | morinos（森林総合教育センター）（岐阜県美濃市）
日光市本庁舎（栃木県日光市）
WITH HARAJUKU（東京都渋谷区） |
| （木材利用推進中央協議会会長賞） | FLATS WOODS 木場（東京都江東区）
長門市本庁舎（山口県長門市）
天草市複合施設「ここらす」（熊本県天草市）
THE THOUSAND KYOTO KOMOREBIDO（京都府京都市） |
| （ 審 査 委 員 会 特 別 賞 ） | Hokkaido CLT Pavilion（北海道旭川市）
高知学園大学（高知県高知市） |

第2部では、黄柳川小学校教頭の桑野立吾氏が「木の温もりがある校舎が好き!!黄柳川小学校の今」、医療法人社団中郷会新柏クリニック総師長代理の与謝野孝子氏が「森の中の医療施設に変身中の『新柏クリニック』」のタイトルで講演を行いました。

■内閣総理大臣賞 (1点)



白鷹町まちづくり複合施設 (山形県白鷹町)



■農林水産大臣賞 (1点)



mother's+(マザーズプラス) (北海道白老町)



■国土交通大臣賞 (1点)



魚津市立星の杜小学校 (富山県魚津市)



■環境大臣賞 (1点)



有明体操競技場 (東京都江東区)



注：詳細は、木材利用推進中央協議会HPに掲載してあります。